

芸術・音楽Ⅰ	2年次以上	2単位	選択履修
使用教科書 『MOUSA 1』（教育芸術社）	副教材等 なし		

1. 学習目標

歌唱、器楽などの表現活動と鑑賞や創作の活動を通して、音楽に対する基礎的な能力を身につけ、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽文化についての理解を深める。

2. 指導の重点

生涯学習の基本となる力を養うために、歌唱・器楽の演奏に必要な知識・技術の習得を目指す。音楽的視野を広げるため、多様な音楽を理解する心情を育てる。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌う活動に関心を持ち、曲想に適した発声で歌うことができる。基本的な視唱・視奏力を身につけ、演奏することができる。音楽の特徴を理解している。	音楽の構成要素を知覚し、その関わりを考え、表現活動に生かしている。	音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱・演奏・創作活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は、次の3観点から行う			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	記譜法について理解している。曲種による歌唱・器楽表現の特徴について理解し、伴奏や他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、表現している。音楽の多様性について理解している。	音楽の構成要素を知覚し、その特徴や曲想との関わりを感受し、歌唱・器楽表現を創意工夫している。また、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。	学習に取り組む準備ができている。技能向上を目指し、課題に取り組んでいる。
以上の観点を踏まえ、授業中の活動内容の観察、音楽表現実技テスト、ワークシート等提出内容の確認・分析などから、評価します。			

5 学習計画

月	単元名	学習活動	時間	評価の観点	評価方法
4 5 6	音楽表現の基礎	曲想に応じた発声の方法を学び、ふさわしい発声で歌う。自身の声域を知り、移調によって表現を工夫する。音部記号、変化記号、音価など楽譜の基礎について理解し、読譜と記譜を身につけて音楽表現に生かす。	20	a c	観察・聴取 ワークシート(分析)
7 9	音楽の調和	音楽の構造を理解しながら、伴奏や他者との調和を意識して演奏する。歌唱・器楽活動を通して、二声の音楽を理解する。ギターの基本奏法を学ぶ。反復記号を学習し、演奏順序を理解する。	15	a b c	
	前期試験	<歌唱>日本の歌曲、日本のポップス各1曲 <器楽>ギター旋律奏、コード奏 <楽典>楽譜の基礎		a b c	演奏・筆記
10 11 12	音楽の多様性	諸外国の音楽・日本の伝統音楽について学び、箏に親しむ。鑑賞活動をとおして、オーケストラの楽器や世界各地の風土と音楽の関わりを知る。リズムや音階について学び、様々な音楽の特徴を理解する。音階の特徴を生かして、旋律を創作し、演奏する。	20	a b c	観察・聴取 ワークシート(分析)
12 1 2	演奏表現の伸長	舞台芸術を中心に様々なジャンルの音楽について学び、歌唱表現を工夫する。鑑賞を通して舞台芸術の特徴、伴奏音楽の役割を理解する。	15	a b c	
	後期試験	<歌唱>歌曲・ミュージカル 校歌 <器楽>箏曲 キーボード奏(創作) <楽典・鑑賞>音階、鑑賞の基礎		a b c	演奏・筆記

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

授業の進め方、課題・提出物など
教科書を中心に表現、鑑賞、創作活動をする。課題、ワークシートは丁寧に取り組み、必ず提出すること。

7 担当者からの一言

音楽Ⅰでは歌唱、器楽、鑑賞、創作など幅広く学びます。苦手な分野があっても積極的に取り組んで下さい。

